

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 2002-029928

(43)Date of publication of application : 29.01.2002

(51)Int.Cl.

A61K 7/00

(21)Application number : 2000-210529

(71)Applicant : FANCL CORP

(22)Date of filing : 11.07.2000

(72)Inventor : HAGIWARA TAKASHI

(54) PACK COSMETIC HAVING LOW STIMULATION

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a weakly acidic pack cosmetic having excellent pH stability, giving low stimulation to the skin and useful for the treatment of the face and body.

SOLUTION: The low-stimulation pack cosmetic contains a pH modifier and a silicate mineral having thickening effect and has a weakly acidic nature of pH<7.0.

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11) 特許出願公開番号
特開2002-29928
(P2002-29928A)

(43) 公開日 平成14年1月29日 (2002.1.29)

(51) Int.Cl. ⁷	識別記号	F I	テーマコード* (参考)
A 6 1 K	7/00	A 6 1 K 7/00	U 4 C 0 8 3 B J

審査請求 未請求 請求項の数 4 O L (全 3 頁)

(21) 出願番号 特願2000-210529 (P2000-210529)

(22) 出願日 平成12年7月11日 (2000.7.11)

(71) 出願人 593106918

株式会社ファンケル

神奈川県横浜市栄区飯島町109番地1

(72) 発明者 萩原 貴志

神奈川県横浜市戸塚区上品濃12番13号 株

式会社ファンケル中央研究所内

(74) 代理人 100108590

弁理士 佐伯 とも子

Fターム (参考) 4C083 AB171 AB172 AB431 AB432

AB441 AB442 AC122 AC132

AD091 AD092 CC07 EE06

EE10

(54) 【発明の名称】 低刺激パック化粧品

(57) 【要約】

【課題】 pH安定性に優れた、皮膚に対し低刺激性の、フェイス、ボディ用の弱酸性パック化粧料を提供する。

【解決手段】 pH調整剤と増粘性を有するケイ酸塩鉱物とを含有し、系のpHが7.0未満の弱酸性であることを特徴とする低刺激パック化粧料。

【特許請求の範囲】

【請求項1】 pH調整剤と増粘性を有するケイ酸塩鉱物とを含有し、系のpHが7.0未満の弱酸性であることを特徴とする低刺激パック化粧品。

【請求項2】 ケイ酸塩鉱物がベントナイトである請求項1記載の低刺激パック化粧品。

【請求項3】 pH調整剤がカルボキシビニルポリマーである請求項1または2に記載の低刺激パック化粧品。

【請求項4】 無水ケイ酸と増粘性を有するケイ酸塩鉱物とを含有し、系のpHが7.0未満の弱酸性であるこ 10

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明が属する技術分野】本発明は低刺激パック化粧品に関する。更に詳細には、pH安定性に優れた、皮膚に対する刺激性が低い弱酸性のパック化粧品に関する。

【0002】

【従来の技術】フェイス、ボディ用のパック化粧品には、ピールオフタイプ、拭き取りタイプ、洗い流しタイプなど種々のものがあるが、いずれの剤型も皮膚に適度 20

【0003】このようなパック化粧品のうち、とくに毛穴の汚れなど污垢の除去に重点を置いた剤型に、カオリナイト、スメクタイト、ベントナイト等ケイ酸塩鉱物を主成分として含有したものがある。

【0004】しかしながら、こういったケイ酸塩鉱物、とくに増粘性を有する該成分を主体とするパック化粧品は、配合成分の性質上、示性pHが7.0以上のアルカリ性を示すことが多く、使用法上、皮膚上に比較的長時間塗付する必要があるため、アルカリ過敏症の人が皮膚刺激を感じるという問題があった。また調製当時は弱酸性であっても長期的にはpHが上昇し、安定性に問題が生じる。

【0005】こういった問題を解決するため、パック化粧品のpHを下げる手段として酸による中和が考えられるが、長期的にpHを弱酸性に維持することは難しい。例えば代表的な中和剤である乳酸を用いる場合、pHを弱酸性に維持するためには2重量%以上のごとく多量に配合する必要があり、その結果他の成分の配合が制限されたり、大量配合そのものによる刺激を感じるこ 40

【0006】

【発明が解決しようとする課題】本発明の目的は、経時的にpHが上昇することなく安定性に優れ、皮膚に対し低刺激の弱酸性のパック化粧料を提供することにある。

【0007】

【課題を解決するための手段】かかる実情において、 50

本発明者は鋭意研究を行った結果、後述する成分を組み合わせることにより、経時的にpHが上昇することなく安定性に優れ、かつ皮膚に対し刺激性が低い弱酸性のパック化粧料が得られることを見出し、本発明を完成するに至った。すなわち、本発明は、

1. pH調整剤と増粘性を有するケイ酸塩鉱物とを含有し、系のpHが7.0未満の弱酸性であることを特徴とする低刺激パック化粧品、

2. ケイ酸塩鉱物がベントナイトである上記1記載の低刺激パック化粧品、

3. pH調整剤がカルボキシビニルポリマーである上記1または2に記載の低刺激パック化粧品、

4. 無水ケイ酸と増粘性を有するケイ酸塩鉱物とを含有し、系のpHが7.0未満の弱酸性であることを特徴とする低刺激パック化粧品、に関する。

【0008】

【発明の実施の形態】本発明で用いられるpH調整剤としては、カルボキシビニルポリマー等を挙げることができる。カルボキシビニルポリマーは1%水溶液にしてpHが3～5の範囲である。このような成分の配合量は、本発明の低刺激パック化粧料中0.02～0.4重量%が好ましく、特に0.05～0.3重量%とすることが好ましい。

【0009】また、無水ケイ酸は一般に球状の微粒子粉体であり、皮膚に対する物理的な刺激が少ない成分である。このような成分の配合量は、本発明の低刺激パック化粧料中1～15重量%が好ましく、特に2～10重量%とすることが好ましい。無水ケイ酸は、パック化粧品において、pH調整剤として作用することができる。本発明の低刺激パック化粧料はpHが7.0未満に安定的に保持される。このようにして得られる低刺激パック化粧料は、弱酸性であり長時間塗布しても刺激感が抑制されている。

【0010】本発明における低刺激パック化粧品には、増粘性を有するケイ酸塩鉱物を含有する。該成分としては代表的なものとしてモンモリロナイトを主成分としたベントナイト等が挙げられる。

【0011】ケイ酸塩鉱物の配合量は、塗付時の使用性の点から、本発明化粧料全量中に1.5～6.5重量%であるのが好ましく、特に2～5.5重量%とすることが好ましい。

【0012】本発明の低刺激パック化粧料は、上記成分のほかに、通常のパック化粧料に含まれる保湿剤、界面活性剤、多価アルコール、低級アルコール、油剤、防腐剤、薬剤、香料、着色剤、水等が配合される。

【0013】本発明の低刺激パック化粧料は、常法により製造することができ、例えば、増粘性ケイ酸塩鉱物に、水、多価アルコール、保湿剤等の成分を混合、分散後、ここに低級アルコール等のアルコール相を加え、混合する等の方法により得ることができる。本発明の低刺

激パック化粧品は、ボディ、フェイスに通常的使用方法により用いることができる。

【0014】

【実施例】 次に、本発明を実施例によりさらに詳細に説明するが、本発明はこれによって限定されるものではない。なお、配合量はすべて重量%である。実施例に先立ち、各実施例で用いた試験法、評価法を説明する。

【0015】 [安定性] 試料を調製後、調製当日および30日後にそれぞれ適量とり、pHメーター（(株)堀場製作所；pH/ION METER F-32）にて測定した。評価は、調製当日のものと30日後に測定したものの差を以下の基準で行った。

- ◎： pH値の上昇が0.5未満
○： pH値の上昇が0.5以上1.0未満
△： pH値の上昇が1.0以上1.5未満
×： pH値の上昇が1.5以上

【0016】 [刺激感] 試料を調製日から30日経過後、 *

* 当社専門パネラー10名により使用試験を行った。試用試験はそれぞれブラインドにて行い、使用中または使用後の刺激感の有無について官能評価させた。なお、官能評価（刺激感）は次に示す評価基準に従って評価した。

刺激を感じると回答したのが2名以下 ○

刺激を感じると回答したのが3～7名 △

刺激を感じると回答したのが8名以上 ×

【0017】（実施例1～4、比較例1～3）下記表1中の（1）に（2）を加え攪拌分散させ、ここへ（5）を加えて湿潤させたところへ（3）、（4）、（6）を加え、均一に攪拌する。そこへ（7）、（8）を加え、均一になるまで攪拌し、試料（パック化粧品）を得た。これら各実施例、比較例の試料を用いて、上記評価基準により安定性、刺激感の有無を評価した。結果を表1に示す。

【0018】

【表1】

		実施例 1	実施例 2	実施例 3	実施例 4	比較例 1	比較例 2	比較例 3
(1) 1, 3 ブチレングリコール		9	9	9	9	9	9	9
(2)カルボキシビニルポリマー		0.05	0.2	0.1	0	0	0	0
(3)乳酸		0	0	0	0	0	2	4
(4)無水ケイ酸		0	0	2	8	0	0	0
(5)ベントナイト		5.5	4	4	2.5	5.5	4	5
(6)カオリン		30	20	20	15	45	30	25
(7)ソルビット液		1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5
(8)イオン交換水		残余	残余	残余	残余	残余	残余	残余
合計		100	100	100	100	100	100	100
評価	安定性	○	◎	◎	◎	×	○	◎
	刺激感	○	○	○	○	△	△	×

【0019】

【発明の効果】 以上詳述したように、本発明によれ

ば、pH安定性に優れた、刺激性の低い、フェイス、ボディ用弱酸性のパック化粧品が得られる。